

議

長 総括というかですね、ちょっと気になった部分がありますので、お話しさせていただきますんですけど。今、盛んにですね、食糧安保というふうな言葉がですね、聞かれます。これ、ウクライナとロシアとの戦争において、小麦が輸出できなくて、その輸出先であるアフリカのほうで飢餓が発生したりですね、いろんな形で、世界が平和であれば順調に流れる物流がですね、それが滞ってしまってるというふうなことでね、例えば日本にしても、近所に中国や北朝鮮といったような国もありますし、何か事があった場合に、食糧がですね、なくなってしまうと。というのは日本の場合、食糧自給率が今38%と、そう言われている中でね、もともと日本人というのは農耕民族で、昔からヨーロッパみたいな狩猟民族じゃなくて、畑を耕してですね、何か作物を作って食べて食いつないできたような民族なんですね。それがですね、これから、この前の国会中継見てましたら、質問の中でね、農地をこれからどうするんだというふうな話が出たときに、担当の大臣が、これ以上農地は減らさないというふうな答えをしてたんですね。

それで、私がちょっと今年度の、来年度の予算を見たときにね、農林水産業費、これがですね、前年対比6.6%減なんですよ。それで、何が大きいのかなと思ったら、人件費ですか、あれが1,100万ぐらいマイナスになってますね、前年度よりね。本来ですと、もっともっと農業に力を入れてですね、やらなきゃいけないところを何か、農業に対する力の入れ方がちょっと弱いんじゃないかなというふうな感じがするんですね。これから、やっぱり大事なのは農地の保全、今ある農地をですね、耕作放棄地ね、放棄地にしないということが1つだと思うんですよ。なぜかって言いますと、一旦耕作…（私語あり）

委

員

長 すみません。今、発言してますから、私語は控えてください。

議

長 一旦耕作放棄地になってしまうと、元の農地へ戻すのにね、3年ぐらいかかっちゃうというふうなことで、今ある農地を、もうこれ以上、耕作放棄地を増やさないというふうな対策もね、必要じゃないかと思うんですね。

それで、この農地に、今、何で、農業が衰退しちゃってるかっていうと、結局、早い話、もうからないからだと思うんですよね。だから、それを行政のほ

うで、何かバックアップできるような方策がないかと。例えば、1反につき、ちゃんとした畑で農地で耕作している農地については、1反幾らの補助金を出しますよと。そういうふうな、ちょっと手厚いですね、支援策がないと、なかなかこの農業離れというのは食い止めることはできないと思うんですよ。それで、そういうことで、例えば松田町でそういうふうな形で農業に対する支援策が充実すればですね、来年度、農業振興の新設補助金というのはありますよね。その中に書いてあります。新規就業者等の借り手が積極的に参入されるようと、支援するというような補助金だと思んですが、とってもじゃないですけど、今のままだとね、こんな人いないですよ、新規農業をね、松田へ行ってやってみよう。やっぱり今ある、例えば寄地区みたいな山間地農業、あるいは松田山のような傾斜地の農業をですね、やっぱり維持して、農地を確保するためには、保全するためには、やっぱりほかの町と違った施策をね、打ち出して、新規就業者をですね、いや、松田なら、そういう補助金あるし、やっても東京に近いし、近郊農業としてね、面白そうだというふうな魅力のある施策を打ち出さないと、なかなか人が集まってこないんじゃないかと思います。

そういうふうなことでですね、今の農業、農地に対する保全に対してですね、もう少し力を入れてもらえるような施策をね、してもらったらどうかというふうなことなんですけど。この1,100万ばかり、人件費ですか、落ちてますよね。その理由と、これから松田町農業に対する振興策、そういうものがあつたら聞かせていただければと思います。

総務課長 まず初めに人件費の関係からお話ししたいと思います。確かに、議長がおっしゃられるように、令和5年度と令和4年度に比べて、農林水産業費の人件費が落ちているということで、こちらのほうは予算上ですね、職員の配置をですね、ちょっと令和4年度に比べて職員数をちょっと減らしている関係上、人件費が落ちているような形で計上させていただいております。以上です。

観光経済課長 2点目の御質問でございます。農業の大変厳しい現状を踏まえて、今後どうするかというお話かと思いますが。まずですね、農業大変厳しい状況というのは、農業委員会また町も一緒にやっておりますけども、農業のパトロールを…

あ、農地のパトロールを毎年度しております。そういった中で、耕作放棄地また非常に厳しい状況であるということは、まず前提でございます。

そういった中、農業の将来をどう考えるか、これは国の施策でも、今、議長さんおっしゃっていただいたように、重要なことということで、よく言う人・農地プランという、町の農業の将来の設計図、これを定めることということとされております。この動きと連動いたしまして町のほうも、その地域別の座談会、今年度行っております。寄地区でも6か所ぐらいですかね、松田地区でも4か所、合計10か所、今年度やっておるんですが、そこでお寄せいただく御意見というのは、おっしゃっていただくように大変厳しいものであるということとは承知をしております。ここの場にですね、農業委員さんも一緒にいていただきながら、いろいろ議論をさせていただいておるわけですが、その中でも、ちょっとこれじゃあ足りないよというようなお話もありましたけども、今の松田町の状況を踏まえて、新規就農また規模拡大、こういった部分での補助金、今までにないものをやらせていただくとか、その農業支援で、地域で御活躍されている団体の方々の支援をさせていただく、あとは環境ということも踏まえた補助金。これだけ3つのものを農業委員会の中でも協議をしながら検討したものでございます。来年度以降につきましても、今申し上げたその座談会というのが、一番最近では本当、今年やっておるものでありまして、御意見を踏まえた形というのを、よくよく、また農業委員会の中でも議論をしながらやっていきたいとは思っております。

議 長 今聞いた話だとね、国がやっていることをそのままね、国が言うことをそのままやっているだけの話であって、これはもうね、やらなきゃいけない部分だと思うんですよ。私が言いたいのは、それプラスね、アルファで、松田町農業の魅力をね、高めて、今、テレビなんかで移住の番組なんか見えますとね、やっぱり農業をするために移住する人って、かなり多いんですよ。だけど、そういう受け皿が松田町に全然ないわけですよ。だって、なぜかって言うと、どこの町とも横並べで、横並びでしょう、やろうとしてることが。人・農地プランにしても何にしても。私はね、例えば大井とか開成とかね、ああいうところ

の農地と比べると、松田町の農地はもっとうんと不利なんですよ。不利なところで同じような、国がこういうふうなあれで来たから、じゃあ、それに合わせてやろうと思っても、負けちゃいますよ。だから、山間地でもね、傾斜地でも、何か魅力があるような施策があれば、農業に対する移住もね、考えられるかもしれないんですけど、やっぱり同じ土俵でね、ほかの町と相撲とつてもね、もう条件で負けちゃうわけですから、その辺をね、やっぱり松田町の特徴を持った施策を今後やっぱり考えていかないと、本当に耕作放棄地どんどんどんどん増えるばかりで、また、おまけにね、農業後継者も全然、うちのね、農業を継ごうなんていう人は全然出てこないですよ。やっぱり、ほかの町と違う町独自のね、やっぱり、支援策みたいなものが、やっぱり必要じゃないかと思うんですよ。やっぱり人間ですから、ガソリンや電気がね、なくなっても、食べるものがなくなったら死んじゃうわけですから、食べ物さえあれば、電気や水道…水道は必要ですけど、電気やガソリンなんかなくたって生きていくことはできるわけですよ。やっぱり、それだけ、やっぱり食べるということは人間の基本ですから、この食べる部分でやっぱり、一つ特色のあるね、施策を打ち出せないかというふうに思いますが、どうでしょうか。

委員 長 ちょっと待ってください。町長、もう政策的なあれですから、町長、お願いいたします。

町 長 議長おっしゃられるようにですね、国のほうも、そういうふうに動いているから横並びっていう話だとは思ってはいないんです。国は国で、やっぱり国土を守っていかなきゃいけないですし、いろんな面で、全体的に、全国見た格好の中での農地を守らなきゃいけないっていうところは、当然、我々小さい自治体はですね、全国町村会議の中で、そこで、議長会もあられると思いますけども、同じような形で要望も上げながら、国土の強靱化も含めながら、農業の発展について、今、議論をしながらやっていることで、多分、国のほうも動いてくれているんだろうなという想像はしています。

そのような中、じゃあ、松田町オリジナルでっていうことの話は、前々からいろいろ話ありながら、ちょうど、いろんな計画を立てていく中で、人・農地プ

ランの話は出ているにしろ、それは現状を把握するということをやっている以上ですね、やっぱり秦野市だとか小田原市さんが今どんなことをやっているのかっていうのは、やっぱり見ながらやっていきつつ、令和5年度の予算に、ほんの少しですけどね、新規就農もしくは隣近所でやってくれるような方々がいらっしやったら、それに対する、ちょっと補助を出しつつ、新しい方と、あとは今やっている方々にも協力頂きたいという予算と、並びに、これページで言うと117ページですけどね、117ページに農業支援隊ということで、寄で言うと、お茶を協力していただいている、いるというか、そういう、…でしょうかね、やっていただいている方々にも支援をしつつ、今いる人たちに支援をしながら、新しい人たちを少しずつ入ってくるようなことをしなきゃいけない。ただ、ここにプラスアルファでもってやっていかなきゃいけないっていうのは、やっぱり空き家に住んでもらうところの支援だとかですね、やっぱりそういったことなんかも掛け算しながら、やっぱりやっていかないと、なかなか受け入れ体制をつくっていくっていうのは必要かなと。

それに、農業委員会さんでよく議論されている話として、やっぱり寄にしてもそう、松田町の松田山とかの周辺にしてもそうですけど、やっぱり、1本、こうして製品というか作物というか、これを作ることで、まず生計が立てれるよというようなものの開発も、やっぱり何といいましょうかね、それがあから、やっぱり参入されて、それプラスアルファ、新しいのにチャレンジっていうような話も聞いています。なので、そこがまず、軸がこれっていうところが、の部分不足分は、またそれができるまで、どうするか、になるのかなとは思っております。例えば小田原で言うと湘南ゴールドだとか、レモンだとか、何かそんなことで軸になるようなものがあるっていう話から、地域参入が少し増えているような話も聞きますので、何かそういったものも含めてですね、農業委員会でも今、議論されているということを知っていますので、今、議長の考え、思いは共有させていただいて、我々も農業振興に向けて、松田に取り入れるところは取り入れたいというふうに考えております。

議 長 やっぱり、農地の今ある農地をね、保全がやっぱり一番大事だと思うんです

ね。もうこれ以上耕作放棄地にしないと。そのためにはですね、やっぱりちょっと手厚い保護みたいなのが、やっぱり松田町必要なんじゃないかなと思うんですよ。1反に対してね、幾らとかさ。そうすると農業でもって、赤字の分の補填もね、少しでもできれば、もう少し農業に対する魅力度をね、上げ、やることによるね、農業を生計で行うことに対するね、力強い支援策っていうんですかね、やっぱりそういうのはやっぱり、特に松田の場合は、山間地とか傾斜地が多いですからね、農業しやすいところとやっぱりちょっと違うんで、やっぱりそういった支援もね、やっぱり今後考えていただければと思いますので、ひとつよろしくお願ひします。以上です。

委員長 議長の見解は、今後の農業政策に対して強い要望と、そういうことでよろしいわけですね。ありがとうございます。

それでは、委員の皆様、先ほどもお伝えしたように、全体を通しての質問、これはちょっと言い忘れてたから、ぜひお願いしたいというものと、総括的な質問、これについてありましたら挙手してください。

なしということで…では、6番。

井上委員 1点ですね、全体的なことということで質問をさせていただきたいと思ひます。今回のですね、予算の内容をですね、見させていただきまして、大変すばらしい内容かというふうに思ひます。ただですね、予算は5年度予算だけですけれども、やはり議会のほうとしてですね、こういった予算を議決する上においては、安定的な財政運営が行われるということを担保にした形の中で、やはり評価をしていくべきだというふうに私は考えています。

先日ですね、この予算審議を、前の段階でですね、財政推計の資料を配付をしていただきました。これはですね、この財政推計を出すということで、以前からこういったもののルールについての説明は受けておひまして、その中で、将来負担とかですね、公債費負担、実質公債費比率等の数字というのは、ここで表示されています。しかしながら、ここで第6次総合計画後期の見直しも含めて5年度予算の中にもですね、この財政推計に含まれていない部分の事業費の中で、もう5年度からですね、もうそのスタートの予算というのが計上されています。

当然、町の財政推計においては、そういったものは固まっていないから出せないよということではなく、総合計画のアクションプログラムなり、当然5年度の予算に計上をされている事業であればですね、それらについてもこの財政推計に加えてですね、の中で財政推計を行っていくべきだと。

例えば、松中の改修事業、これは4年度予算で計上されております。アクションプログラムの中では、寄小学校の改修事業もですね、見えてきております。それから、来年度予算の中で、松田幼稚園の設計等も含まれています。先ほど個別で質問をさせていただきました南口周辺道路整備もですね、用地買収、南口広場関係の用地買収の先にはですね、周辺道路整備ということで、工事自体も用地買収、拡幅に伴う用地買収といった経費も見えてきています。

あと大きなものとしてはですね、やはり再開発事業を進める中で、町の負担額、再開発ビル関係の、これはデベロッパー等が、つまり準備組合、再開発組合が発足してからの話だよという断り書きはあるんですけども、やはり財政推計の中で、これだけ大きな事業を含めないで財政推計をするということは考えられないと私は思います。また、新モビリティサービス、松田町超高齢社会の中において欠かすことのできない、生活をする人の足となるですね、サービスの開始をされようとしています。これらを含めたですね、財政推計をどうふうに考えるのか。財政調整基金の現在高の推移、5年度では2億1,000万円の取り崩しをされるということも含めてですね、今後の財政推計に対する町の考え方についてですね、お知らせいただきたいと思います。

財 政 係 長 今、井上議員おっしゃられた事業につきましては、全て今、財政推計の中に網羅されているような状態で推計させていただいております。それでですね、今後のことでもありますけれども、財政調整基金、令和4年度末で14億9,500万円ほどになりますけれども、今後その推計上はですね、令和30年度末で約6億3,000万まで減るっていうような推計になってございます。（私語あり）令和30年度末で6億3,000万まで減るっていうような推計でやってございます。それに加えて、まだ広域的施設、ごみ処理施設などのですね、はっきりした数値が見えてきてないので、それについてはまだ入っていない状態というところで、そ

こが加わってくると財政調整基金さらに減っていくかなというところで見込んでございますので、今後もですね、健全な財政運営を目指してですね、堅実にやっていきたいと、そういうふうに考えてございます。以上でございます。

井上委員 ちょっと確認ですけれども、松中改修とか寄小学校改修、松田幼稚園改修、それは入ってるんですか。どこに、入ってるというのはどういうふうに入ってるのか、ちょっと分からないんですけど。

財政係長 今日お持ちかどうか分かりませんが、財政推計の全協のときの資料のですね、2枚目。2枚目のですね、歳出ですね、事業費、普通建設事業費基本設計委託料などって書いてあるところのですね、まず、松田中学校や寄小学校などはですね、ここの5段目、個別施設計画関係、教育っていうところのここの中に全て入ってございます。（私語あり）

井上委員 ちなみに分かりますか。個々の個別の金額は。

委員長 今回の井上委員の質問は、近野係長から説明あった、一番下の教育見込額1,700万、そのこと言ってたっけ。

井上委員 11億9,700万。

委員長 11億、11億、この上か。その内訳ってことだ。どれが幾らって、そういうあれだよな。（「そうですね。」の声あり）ということです。

井上委員 そういった説明が、この資料のとき、なかったような気がしたんで、分かればですね、その11億9,700万円ですか、そこで年次別にありましたよね、補正記号の部分は3億3,000万、これは松中かなと思うんですけども。ちょっと、その辺の区分で、令和6年度はこれは何だよというのが分かればですね、示していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

財政係長 一応、個別施設計画のときに出した資料にのっとして作ってますので、そのときの状況とほぼほぼ同じでございます。直近で言いますと、令和4年度のところで今回補正させていただいた3億3,000万というところが松田中学校になってございます。実質、これは繰越しになるので次の年度に行くんですけども、その翌年度、令和6年度のところ1億2,000万というのも、これも松田中学校の予定でございます。寄小学校ですけれども、寄小学校は令和8年度の1億

2,000万、それと令和9年度の1億2,000万が寄小学校になってございます。ちょっと全てを言っていくと、なかなか時間がかかっちゃうので、このぐらいでよろしいですか。

井上委員 あと3つだけだから。あと3つだけだよ。

委員長 12年、13年。

井上委員 5,000万、5,000万、5,000万。

平野委員 11年。

委員長 11年だ。11、12だ。その辺まででいいよ。5,000万、5,000万。

財政係長 11年、12年は松田幼稚園の改修を予定でございます。これは個別施設画面上です。

井上委員 都決。

財政係長 個別施設画面上。

委員長 公共施設の個別計画に。

財政係長 これは個別施設画面上ののりによって作ってございますので、それにのりによって記入されてございます。以上でございます。

委員長 それをリンクさせてるってということだよ。

井上委員 じゃあ、そこの最初ですね、3つは分かりました。あとですね、南口の周辺道路整備の関係の事業費、再開発事業に係るビルの中の床についてですね、どういうふうな考えを持っていくか、事業費として持っていくか。あとは、新モビリティサービスにおける運用の際ですね、事業費等を踏まえていった場合にですね、財政推計としては、どの程度を見込んでいただけるか。

参事兼政策推進課長 まず、南口の件につきましては、令和5年度予算に組み込まれております、推計の中に。それを基に推計を出してありますので、南口関係の工事費等は全て推計の中に入れております。それは1枚目のほうに全て入っておりますので、財政推計の1枚目。それと、令和5年度、新モビリティが始まりまして…（私語あり）そうですね。1枚目の財政推計の中にですね、もちろん、この国庫支出金等の収入部分も、歳入ももちろん入れております。

またですね、政策的経費がございまして。1枚目です。1枚目の歳出がありま

すが、管理的経費や政策的経費書いてありますね、その中に、今言われた、南口の部分は全て含めた形で推計を今しているところでございます。これと3枚目がリンクするので、3枚目の公債費の見込みの中にですね、下の表があると思うんですけども、新松田駅南口整備事業2023というところの下の表の中、事業名、これを含めた形でこの公債費も入れておりますので、この公債費と一緒にリンクしているのが、この1枚目、2枚目になっておりますので、その辺で私のほうは説明をこの前したつもりでございます。

あとデマンドバス、A I デマンドバスの交通につきましてもですね、令和5年度予算、6年度、7年度という推計をもとにですね、これを出しているところでございます。主に、先ほど言った、そちらのほうにつきましては、管理的経費の部分のほうに充当しているところでございます。以上です。

井上委員 分かりました。そういう細かい説明がですね、私としてはちょっと理解できていませんでした。この想定した主な計上事業の中に、来年、今年で言えば、令和5年度の予算計上の事業であればですね、その辺がちょっと明確に分かるような、想定した主な計上事業ということで挙げていただければというふうに思います。

そうしますと、ほぼですね、公債費関係の負担というのは、先ほど述べた事業費が、この3枚目の中の起債等の元利償還金、それに伴う実質公債費、公債比率ということで計上されているということで、よろしいでしょうか。

参事兼政策推進課長 そのとおりでございます。

井上委員 分かりました。その中でですね、最初、個別の中で、町税の減収等の傾向ということで質問をさせていただきました。そこはですね、ちょっとまだ、人口の減少グラフがどういうふうな形になるかというのは、ちょっと後でということでしたので、まだ把握できていませんが、それらを通した中でですね、補填をする財源としてですね、ふるさと納税と、財源と言っていいのか、財政調整基金のほうをですね、取り崩して最終的には6億3,000万円ということで、財政調整基金を取り崩して担保をする会計の中だということで、町長のお考えの予算となっているかどうかということで、そういった財政調整基金の使い方等を

含めてですね、町長のお考えをお伺いをしたいと思います。

町長 ちょっと前半的が分からなかった。最後の、最後の部分はよく分かりました。

井上委員 町税が…いいですか、

委員長 どうぞ、どうぞ。端的にお願いします。

井上委員 町税の減収傾向を含めた中で、人口もですね、なるべく定住少子化を推進して、なるべく同じような平行移動するようなペースでというふうに考えているですけれども、実際にはやっぱりどうしても減少をしていってしまうと。そういった中で、どう今後考えていくのかですね。

町長 ありがとうございます。まず、人口1万人ということで掲げて、この推計をさせていただいてますけども、非常に、このところの減少傾向のスピードが速くなっているなというふうな危機感は当然持っています。ですので、この推計上、推計どおりにいくように、当然、その気持ちを含めて、気持ちっていうか、そういう考えを求めて今回予算を組ませていただいたところもあります。国のこの地方公共団体の何ですかね、存続のための地方交付税っていうのがあって、松田町の基準財政需要額に足りない分は、交付税算入されているというようなことで、非常にありがたいとは思ってはいますけども、あんまりそれに頼りすぎないような格好でね、やっていくためにも、やっぱり1万人の人を増やし、まずはキープしなきゃいけないということを考えますので、その分、町税が減少になった分については、今で言うと、ふるさと納税をやるとか、遊休地をとにかく活性、使ってですね、住んでもらえるような状況にしていくとか。ちょっと幼稚園の改修工事を、ちょっと少し前倒しして実はやらせてもらうんですけども、これに関しても、やっぱり子育て世帯の方々がやっぱり預けたい幼稚園にしてもらうための、少なからず環境整備をまず、やらなきゃいけないというようなことで、少しずつ、ちょっと前倒ししているところもあります。ですので、そういった点では、町税が減少しつつある中でも、しっかりと格好で、その後、また増えていくような方向性をするための予算ということで考えております。

また、2つ目の、財政調整基金の、私の考え方とすると、利活用っていうか、運用の今度の計画について御質問されているんだろうなというふうに想定した中で回答させていただきますと、約15億ぐらいある分について、この間の御質問があったときに回答したように、あるとは思ってないですね。実際、この15億も、これまでも、短期間で、皆さん方の御協力を頂いて、積み上がったお金です。なので、湧いてできたお金じゃないので、やっぱり選択と集中という中で、非常に心苦しい予算を今回も組みましたけども、この財調はあるから何でも使うんだというふうな感覚は、正直持ってないです。なので、今後、財政需要的に、ごみの処理場の広域化の分の予算と松田分署については、この2つは恐らく令和6年にはです…の次の財政推計出すときには、大方多分これを含めながらの提案になるんじゃないかなろうかというところまで、今来てるかなと思ってはいます。ひょっとしたら、分署の分がまだ設計が上がってきてないとか言われる可能性はありますけどもね。ごみ処理については、そういった格好になるので、徐々に、そういったのが大方入れながらも、何とか、その今の町民のサービスといいましようかね、そこは低下させない中で、今後、町政運営をしていくように、これまで努力したというふうに思っています。

あとは、駅の関係の話が出ましたけども、ここも今後、この間の議会でも回答しましたように、町の公共施設的な部分を入れるってなると、当然そこに費用が発生します。その分はまだ見込んでないので、こういった見込みを含めながら言うと、本当、今の現状の15億で足りないというふうに危機感を持ってますので、今後まだまだ、さらにですね、将来を見据えた中で、選択と集中をしっかりとやっていきながら、町民の方々に御理解を頂いてですね、我々も腹くくって、しっかりと町政を運営していかないと、なくなっちゃうんじゃないかなろうかというふうな心配がありますから、その辺は議員の皆さん方に御理解頂きながら、今後も進めてまいりたいというふうに考えてます。以上です。

井 上 委 員 ありがとうございました。そうですね、まだ、漏れている部分として、ごみ処理の、広域化のごみ処理ということの部分は、大分大きい部分が想定されるかと思えます。何に使ってもよいという考え方ではないということで安心をしま

した。ぜひですね、よろしくお願いをしたいと思います。

その中で、松田幼稚園、この間もですね、現地視察ということで見せていただきましたが、保育室のフロアがですね、あの状態は、もう10年以上ですね、何か続いているのではないかなということで、やはり一番園児が過ごす部屋のフロアの改修ということで、前倒しという話もありましたが、ぜひですね、そういった環境はですね、さらに前倒しをしていただいでですね、幼稚園という環境に馴染むですね、園児が幼稚園での生活を送れるような対応をですね、ぜひ、御配慮を頂きたいと思います。以上で質問を終わります。

委員 長 回答は必要ないですね。要望ということで、よろしいですか。

井上委員 結構です。

委員 長 分かりました。それでは、委員の皆様の予算の全体を通しての質問、総括的な質問事項を締めさせていただきます。

私まだ発言してないんで、1点だけ確認させてください。この、近野係長、財政推計です。今、井上委員の説明で、ここの歳出の11億9,700万、一個一個説明されたと思います。最後に、令和11年と12年、5,000万円ずつ入ってますけど、これ幼稚園って表現されました。これは松田幼稚園のことですか。

いいよ、じゃあ、松田幼稚園のことでいいね。はい、そうすると今回5年度で幼稚園の実設計が777万円ぐらい見てるでしょう。6年も開けちゃうの。それがね、全然分からなかった、聞いてて。その件について、どうですか。

財政係長 5年度予算で設計見込んでございまして、予定どおりいけば、6年度、7年度ってというような形になるかなと思ってございます。今回、この推計で出した時点ではですね、個別施設計画、先にもう出させていただいているので、それにのっとってやっているっていう形になっています。なので、実際には、この11年、12年のものですね、前倒しで6、7で入ってくるというようなイメージで、来年度出させていただくときには、そこを修正というか、更新させていただくような形で考えてございます。以上です。

委員 長 ありがとうございます。この時点では、公共施設管理計画に基づいたもので、年度のぶれがあると。この次のこの改定的时候は、これが前倒しで反映さ

れてくるということで理解させていただきます。ありがとうございました。

それでは、これで質疑を打ち切ります。御異議ございませんか。

(「異議なし」の声多数)

御異議なしと認めます。質疑を打ち切ります。町長はじめ理事者の方、また職員の方につきましては、長時間にわたりまして質疑に応答していただき、ありがとうございました。御苦労さまです。これを持ちまして、質疑を終了としますので、退席をしてください。御苦労さまです。

(町側職員 退席)